

のんのハウス毛長川寮 地域連携推進会議報告

会議情報

- ・日時：令和 8 年 8 月 19 日（水）15:00～
- ・場所：のんのハウス毛長川寮
- ・対象事業所：共同生活援助事業所（グループホーム）
- ・出席者：・利用者 N 様 ・ご家族 N 様 ・民生委員 K 先生、職員 Y K N

議事録

1. 事業所概要と地域連携推進会議の目的

- ・法人名：一般社団法人楠の木会
- ・事業所名：のんのハウス 2
- ・グループホーム名：のんのハウス毛長川寮
- ・所在地：東京都足立区東伊興 2-15-6
- ・サービス種別：共同生活援助（グループホーム）
- ・定員・入居状況：定員 7 名、入居者 4 名（女性 4 名）

精神障がい、知的障がい、身体障がいのある利用者に対し、食事提供、体調確認、生活相談、服薬確認、金銭管理支援、清掃・洗濯等の生活支援、関係機関との連絡調整を行っている。地域連携推進会議は、利用者が地域の一員として安心して暮らし続けられるよう、事業所と地域関係者が情報共有と意見交換を行う場として開催する。今回を初回開催とし、地域との関係づくり、施設・利用者への理解促進、運営の透明性とサービスの質の確保、権利擁護と意思決定支援の推進を目的とする。

2. 運営方針・支援体制と地域連携

- ・利用者の意思と人格を尊重し、一人ひとりの状況に応じた支援を行う。
- ・家庭的で安心できる住環境を整え、地域や家族とのつながりを大切にする。
- ・医療機関、相談支援事業所、行政、地域の方々と連携し、安定した生活を支える。
- ・職員間で情報共有を行い、支援内容の統一と事故防止に努める。

職員体制は、管理者 1 名、サービス管理責任者 2 名、世話人 6 名、生活支援員 3 名、夜間支援員 9 名で、いずれも兼務を含む。夜間支援員は複数事業所を兼務するシフト体制で、男性グループホームには男性職員、女性グループホームには女性職員を配置している。

地域との関係では、日常のあいさつ、生活音やごみ出しへの配慮、近隣からの意見への迅速な対応を重視している。今後は地域行事への参加・協力や、地域の方に事業所と利用者の暮らしを知っていただく機会を検討する。

3. 報告事項

- ・苦情・要望：2件。ごみの仕分け不十分について、分別と収集曜日の確認を徹底する。深夜帯の笑い声・怒鳴り声等の騒音について、利用者への声かけと夜間の見守りを強化する。
- ・事故報告：2件。階段での転倒・後頭部打撲に対し、冷却、付き添い、服薬、見守りを実施した。夜間の無断外出では警察保護後に職員が迎えに行き、再発防止として玄関扉の開閉チャイムを設置し、対応手順を全職員へ周知した。
- ・ヒヤリハット：1件。利用者の単独外出時に近隣の方が救急車を要請したが、職員対応時のバイタルは安定しており、搬送せず帰宅した。外出時の確認、見守り・声かけ、外部から連絡を受けた際の対応手順を共有する。
- ・虐待防止・権利擁護：今年度、虐待に該当する事案はない。虐待防止、身体拘束適正化、権利擁護を職員間で継続して確認し、本人の意思と希望を尊重した支援を行う。
- ・防災・BCP：共有部および各居室へ防災カーテンを設置し、消防検査を完了した。年2回の消防訓練を実施し、避難経路、非常口、備蓄品、緊急連絡体制を職員間で共有している。

4. 利用者の普段の様子とレクリエーション

ホームでは朝食・夕食を提供し、食事を通じて健康状態や生活リズムを確認している。利用者はそれぞれの日中活動先へ通所し、生活リズムの維持と社会参加につなげている。日々の声かけと見守りを通じて体調や気持ちの変化を確認・傾聴し、安心して生活できるよう支援している。

レクリエーションとして、令和7年12月に幸楽苑、令和8年4月にサイゼリヤ、令和8年6月に焼肉きんぐで食事会を実施した。利用者は外食を楽しみ、メニュー選びや利用者同士の会話を通じて交流を深めた。

5. 意見交換・質疑応答

民生委員から、夜間支援員9名の配置体制と、自立に向けた具体的な支援内容について質問があった。

夜間支援体制については、複数のグループホームを運営しており、夜間支援員が複数事業所を兼務してシフトを組んでいるため全体で9名となること、各ホームの利用者構成に応じて担当職員を配置していることを説明した。

自立支援については、完全な自立を直ちに目指すのではなく、利用者一人ひとりに合わせて

段階的に進めていることを説明した。具体例として、自分で使用した食器を洗う、お小遣い帳をつけるなど、日常生活の中で「一人でできること」を少しずつ増やす支援を行っている。

会議のまとめ

1. 事業所概要、運営方針、支援体制、地域連携、事故・ヒヤリハット、権利擁護、防災・BCP、利用者の生活状況およびレクリエーションについて共有した。
2. 夜間支援体制と自立支援の考え方について説明し、利用者の主体性を尊重しながら段階的な支援を継続することを確認した。
3. 本会議では新たに決定すべき事項はなかった。今後も苦情・事故・ヒヤリハットの再発防止策を継続し、地域との連携を深める。
4. 次回の地域連携推進会議は、日程調整後に関係者へ別途案内する。

施設見学・所感

会議資料に沿った説明後、利用者のプライバシーに配慮しながら、共有スペースや居室等の施設内を案内した。生活環境、安全面、職員の支援、避難経路等を確認し、外部の視点を今後の運営改善に活かしていく。